

# 第5回第六次富士市総合計画審議会 議事録

令和3年4月14日(水) 午後7時00分

富士市教育プラザ1階 会議室1・2・3

【第六次富士市総合計画 前期基本計画（案）について】

石川会長 今回は、会議時間短縮のため、事務局説明は事前に皆様にユーチューブでご覧いただいているので、ご意見がありましたらお願いします。

水野委員 資料P.12 政策の体系で、基本目標1の中の「政策分野4 市民活躍」であるが、「市民活躍」という言葉を「男女共同参画・ジェンダー平等」に変更できないか。富士市は男女共同参画等をこれまでかなり進めてきており、「市民活躍」だとこれから市民に活躍を期待するようなイメージであるが、すでに活躍している。

石川会長 今のご意見を受けて事務局いかがですか。

事務局 「市民活躍」については、庁内の検討段階でも様々な議論があったところである。当初は「まちづくり」という案もあった。施策は3つの柱で、「地区まちづくり活動」「男女共同参画」「多文化共生」を位置付けている。政策分野について、広く捉える言葉の方が良いということで「まちづくり」にしていたが、「まちづくり」もかなり広い言葉である。性別や国籍等に捉われずに市民が活躍できる富士市にしていきたいという思いがあり、「市民活躍」とした。まちづくり活動という市民活動の軸となる各地区の皆様活動を位置付けていきたいと考えているため、それらを総称した中で「市民活躍」にした。いただいたご意見については参考とさせていただき、分科会で検討していきたい。

石川会長 水野委員、よろしいですか。

水野委員 私は富士市の女性の市民活動を長らく研究してきており、富士市は市民活動が盛んで、すでに市民活躍はされているので、市民活動をもっと支えていくということが響く言葉に変えた方が良いのではないかと思います。「市民活躍」と書かれてしまうと、これからもっと活躍するよう言われているようであり、富士市はすでに若い方から年配の方まですでに活躍されているので、ご意見させていただきました。

石川会長 ここは階層構造になっており、施策を一言でまとめると「市民活躍」となっている。施策を包含する言葉にしないとならないのでこのようになっている。いただいたご意見は参考に、今後事務局で検討していただきたい。

水野委員 今聞き取りにくかったし、私の話も聞き取りにくかったと思うので、後日意見をメールで事務局へ送るようにする。

石川会長 事務局、メールでよろしいですか。その他ありますか。

田宮委員 だいぶまとまってきた印象がある。  
いくつか意見があるが、まず1つ目として、P.10第2章の第1節に「SDGsの活用」とあるが、「活用」という言葉がどうなのか。理念を導入しているという意味で使っているのかと思うが。

事務局 「SDGsの活用」については、第2章の題名にあるように「めざす都市像の実現に向けた基本姿勢」として総合計画を推進していくにあたってSDGsを活用していきます、という意味で「活用」を使用している。具体的には、SDGsの理念や考え方を取り入れて総合計画を進めていくということである。

石川会長 田宮委員、よろしいでしょうか。

田宮委員 いまの説明を聞くと「活用」でもわかるが、理念を導入しているということでもよろしいですね。  
次に、P.5の「宅地」のところで、確認しておきたいが、「教育・文化・福祉等の公共公益施設用地」について書かれているところで、「防災機能の発揮などにも配慮しつつ、市民の多様な需要に対応するため、必要な用地を適切に確保します。」とあるが、これはどのようなことであるか。

石川会長 文章の意味合いと言うことでよいか。

事務局 「公共公益施設用地」とは、学校等の教育施設や文化施設、福祉施設などがあるが、それらの施設については、主な目的の利用の他に、災害時に避難所としての活用があるので、そのような活用にも配慮して本来の目的を発揮していくような土地利用をしていくことを考えていく。また、市民の方に使っていただくための施設になるので、様々な需要に対応するための用地の確保をしていくことを定めている。

田宮委員 用地というのは、新たな用地ということなのか。それとも学校施設を多様

な需要に対応するという意味なのか。

事務局 既存用地も含めての話である。新たな用地の確保については必要に応じてということになるかと思う。

石川会長 田宮委員、他にございますか。

田宮委員 P.17の「5つの重点戦略」であるが、戦略3に記載されている「結婚・妊娠・出産・子育てに至る切れ目ない支援」ということは重要だと思うが、一方で多様なライフスタイルという意味でも配慮を考えていかないと考えているので、戦略としては大切な部分であると認識しているが、多様な考え方等の配慮を念頭に置きながら各論に臨んでいけばよろしいか。

石川会長 事務局お願いします。

事務局 重点戦略については、前ページの「重点課題」に対する「重点戦略」としている。多様な考え方は、各論の中で記載しているため、ご意見のとおりである。

田宮委員 最後に意見であるが、P.81の「総合計画を推進するための取組」について、「(2)民間活力の導入」であるが、民間活力を導入していくことは大切だと認識している。しかし、サービスの中でも窓口など定型業務については民間活力を導入していくべきであると思うが、教育分野など、その質が重要となるものについては、きちんとした評価システムを導入しながらやっていかないと崩れてしまうと思う。それらを注意していくことが大切。他市で失敗した例もたくさんあり、今もそれが続いているケースもあるので、評価について十分注意していただきたい。

石川会長 今のご意見は、民間活力をどの程度どこまで活用していくかということと、評価についてであるが、これらは考慮された上で書かれているということによろしいか。

事務局 まだ具体的に教育分野でどこまでといったようなことを考慮して書いているわけではないので、ご意見を参考にしながら進めていきたい。

石川会長	次に、清委員、お願いします。
清委員	P.12「政策の体系」の基本目標2の政策分野2「子ども・若者」について、ここだけ他の政策分野に比べて用語の使い方が違っており、「子ども・若者」に対してどうするのかということがわからない。「子ども・若者に対する支援」など、もう少し具体的な書き方をした方がよろしいのではないか。
石川会長	ここについては、確かに他と比べると違和感があるが、事務局いかがか。
事務局	この「政策分野1子育て」と「2子ども・若者」については、これから六次総期間中においては、少子化の時代にあって、非常に大切な政策分野である。子育ての部分は非常に幅広く、また若者の流出が大きな課題となっている。そのような中で、子育て・子ども・若者の部分のボリュームが非常に大きいため、これらを2つに分けている。ご意見をいただいた「子ども・若者」については、主体を記載しており、この部分についても内部の検討の中で非常に悩んだ部分である。特に「子ども・若者」にスポットを当て、主体として施策を充実していくということで案としているが、他に良い意見があれば、今後分科会の中でご意見をいただきながら検討していきたい。
石川会長	ここは他と比べると違和感がある。清委員のご意見を踏まえ、もっと良い意見があれば反映していただきたい。 他にいかがか。 櫻井委員、お願いします。
櫻井委員	P.34～37に子どもの教育のことについて書いてあるが、富士市は図書館教育、ICT教育に力を入れていてとてもありがたいことであると思っている。その分、他市に比べて低学年のサポート員が少ないと思う。障害ではなく、配慮が必要なお子さんが今非常に増えているので、特別支援学級とは別に、普通学級でサポート員をつけていただく予算をもっと付けていただきたい。子供を大切にすることにつながる。サポート員がいないと授業が進まない、先生の授業が進まない、ということが多いため、予算がないとできないので、そこを要望としてお伝えしたい。
石川会長	今のご意見は各論に関するご意見であり、今後分科会の中で議論されると思うが、事務局いかがか。

事務局 櫻井委員からいただいたご意見を踏まえ、各論の中でも検討させていただきたい。

石川会長 清委員、先ほどの回答についてよろしかったか。

清委員 もう少し具体的な言葉で書いていただければと思う。

石川会長 他にいかがか。土屋委員、お願いします。

土屋委員 土地利用について、現在策定中の計画との整合性を考慮するとのことであったが、国土利用計画ができた段階で入れ替わりがあるのか。  
次に、P.9の財政について、市民一人当たりの市債残高が適正なのかどうか分からないので、財政健全化の4指標を入れて大丈夫なのだとということを書いた方が良いのではないか。  
また、P.14に「人口置換水準」とあるが、このような専門的な言葉には注釈をつけた方が良いのではないか。  
P.22で指標について、今回は全て200人の市民モニターにお願いするということであるが、今後は定点評価に切り替えていくということか。内部での検討経過について教えていただきたい。

石川会長 今4点ご意見等があったが、事務局いかがか。

事務局 1点目について、国土利用計画は国土利用法に基づいて策定され、全国計画、県計画、市の計画となっており、それぞれ整合を取りながら策定される。現在、市の計画を県の調整会議にお諮りし、県の計画との整合性を確認している。そちらの意見を踏まえ、修正があれば対応していく。  
2点目について、一人当たりの市債残高のグラフをお示ししているが、富士市は他市に比べると県内の平均よりは低い。静岡市は倍くらいの残高、浜松市・沼津市は同水準。富士市単独で見た時の市の財政状況をお示しするため、本市のみを入れている。健全化の指標については、市債残高を基準にする将来負担比率という指標があるが、県内では高い方で、あまり良くない。しかし、富士市は不交付団体であり、経常収支比率等の他の財政指標は健全性を維持しており、特に財政的には問題ないと思っている。指標についてはご意見を参考に、検討したい。  
3点目の人口置換水準については、この数字は2.07という合計特殊出生率

であると現在の人口を維持できるという数字であるが、わかりにくいため注釈を入れていく。

4点目の指標については、第五次富士市総合計画までは各節ごとに市民満足度と代表的な施策指標としてアウトプットの指標を置いていた。この代表的な施策指標については、アウトプットであり毎年の評価ができたが、市民満足度については、3000人の市民にアンケートをとるものであり、毎年行うのは難しく、5年に1度で評価しているためリアルタイムで見ることができない等の課題もあった。また、市民満足度と代表的な施策指標との関係が相違していることもあるので、今回は一定の方に、毎年評価していただくということで考えている。

石川会長 今4点ほどあったが、特に財政の指標などは市民の方に分かりやすい表記にさせていただきたいと思う。  
他にいかがか。  
遠藤委員、お願いします。

遠藤委員 まず、資料の建付けについて、第3章と第4章について、戦略を実現するために施策を展開していくというのが一般的ではないかと思うが、この建付けだと施策の後に戦略があり、単純に違和感がある。戦略に基づいて施策を策定したなら逆にして紐づけを説明した方が良い、そうではなく施策の後に戦略とする理由があるのであればどのような関係になっているのか納得できる説明を示した方が良い。  
また、前回まで審議していた基本構想の施策の大綱と、今回の政策はキーワードが似ているので親和性が高いと思っていたが、P.18、19第2章のSDGsの活用とデジタル変革を取り入れるという矢印の方向について、基本構想の時には施策の大綱にかかっていたが、ここでは重点戦略にかかっているため、基本構想と前期計画がどのように整合しているのかわかりにくいと思った。施策と重点戦略の関係性について説明があった方が良い。  
2点目は用語の説明について、読んでいて説明があった方が良かったと思った用語が3つほどあった。P.8「ESCO事業」、「PFI」、P.82「ICT」である。これらは前段階で説明されていれば問題ないが、初出であれば説明があった方が良かったと思った。

石川会長 まず構成について、事務局いかがか。

事務局 施策と戦略については、総合計画は市の全ての施策をお示しするため総花

的にならざるを得ないという点から、その中で力を入れていく施策として重点戦略を位置付けるという構成になっている。このため、第3章が政策の体系、第4章が重点戦略となっている。また、P.18、19の矢印については、「めざす都市像の実現に向けた基本姿勢」で示しているように、SDGsとデジタルは総合計画を進めるに当たって全体にかかってくる。その一部である重点戦略にもかかっているということで、ここでも掲載している。

また、用語については注釈を入れさせていただきたい。

石川会長 遠藤委員、よろしいでしょうか。

遠藤委員 読み手がなるべく用語の解説等で解釈を必要としないように構成していただきたい。理解はした。

石川会長 他にいかがか。高澤委員、お願いします

高澤委員 今までの計画との違いが今回は出ていると思っている。今までこれだけ具体的なものはなく、計画だけで見直しは入れられないと言われたことがあるが、それが入っているのが良いと思った。

一番肝心なのがSDGsであるが、SDGsは新聞だけではよくわからない。私は、以前話し合いをしなければいけないことがあり勉強したが、その時にこれはかっこいいけどすごく難しいと感じた。

また、計画ができて、市民が知らないとなんにも役に立たないので、完成したら地区の会合に行って地区の方に啓発を何度かやっていただきたい。文書で出していることで、市民が理解したということではないので、行政の方は大変だと思うがお願いしたい。

石川会長 SDGsの言葉はだいぶ浸透してきたが、意味まで理解されてはいないと思うので、ご意見を参考にさせていただきたい。事務局いかがですか。

事務局 SDGsについては、まだまだ市民の皆様に浸透しきれていないため、様々な啓発をしていきたい。

また、計画が出来上がった後は、各地区を回って説明をしていきたいので、その際にはご協力をお願いします。

石川会長 その他いかがですか。芹澤委員、お願いします。

- 芹澤委員 SDGsについて先ほどご指摘があったが、「SDGsの活用」については、目標を活用するということではやはり違和感がある。達成できていない目標を活用、利用していくということはしっかりこないと思った。また、P.10「パートナーシップの推進」の文章が難しい。「本市のSDGsの基盤となるプラットフォームを活用し、様々なステークホルダーとの連携を強化し、パートナーシップによる課題解決を図ります」というのが何と繋がって何とパートナーなのか、具体的に書くのは難しいと思うが、何と連携するのか、カタカナではなく漢字を使うとか、わかりやすい表現が必要なのではないか。
- 石川会長 SDGsについては先ほども指摘があったが、事務局もう少し説明していただけますか。
- 事務局 SDGsは「GOALS=目標」なので確かに目標の活用では違和感があるので、再度事務局で検討したい。パートナーシップについても、再度事務局で検討したい。
- 石川会長 この部分は慎重に考えていただきたい。  
他にいかがか。田宮委員、お願いします。
- 田宮委員 関連した意見であるが、芹澤委員がおっしゃったことはそのとおりであり、理念を導入するということはわかるが、活用は考え直していただきたい。パートナーシップの推進については、パートナーシップは経済・社会・環境の3側面のパートナーシップとして考えなければならない。また、この図ではなくウェディングケーキモデルを載せた方が良いと思う。丁寧に説明していかないとSDGsを理解していただくのは難しい。
- 石川会長 芹澤委員と田宮委員からご意見があったので、この辺は少し慎重に考えていただきたい。私も活用という言葉は違和感があり、委員の皆さんを見ていると同じようなので、この辺りは、注釈や文章でもう少しわかりやすくしていただきたい。  
他にいかがか。水野委員、お願いします。
- 水野委員 私もSDGsのプラットフォーム、パートナーシップの使い方がわかりにくかった。また、活用という言葉にも最初から違和感があった。また、S

D G s がいきなり出てきても理解できないと思う。国連、国、市ということがわからないと理解できないし、全て日本語に置き換えないとわからないので、もっと丁寧に説明していただきたい。

田 宮 委 員 「持続可能な社会の創造のために」などを加えていくともう少しわかりやすいと思う。プラットフォームを活用して欲しいという行政の思いもわかるが、そこを前面に出してしまうとわかりにくい。

石 川 会 長 この辺りは市民にわかりやすいように示していただきたい。  
他にいかがか。深川委員、お願いします。

深 川 委 員 S D G s の活用という言葉は理念の導入といった言葉に変えていただければ良いと思う。パートナーシップが突然出てきているように見えるが、S D G s の啓蒙活動と総合計画が出来上がって配付されるのはどのような順番になるのか。先に啓蒙活動されるのであれば問題ないと思うが、どうなのか。

石 川 会 長 今回の質問について、事務局いかがか。

事 務 局 総合計画の策定とは別にS D G s のプラットフォームの構築を進めている。S D G s については、市民の皆様に理解していただくよう啓発活動も並行しながら進めていくが、総合計画が出来上がるタイミングでもまだS D G s に対する市民の皆さんの認知度が上がっているとは思わないので、理解されるような書き方をしていかなければならないと思っている。

石 川 会 長 他に意見はないか。  
意見がないようですので、事務局は本日の審議内容を踏まえて検討をお願いしたい。